

お馬の親子



童謡「おうま」

1. おうまの おやこは

なかよし こよし

いつでも いっしょに

ぽっくりぽっくり あるく

2. おうまの かあさん

やさしい かあさん

こうまを みながら

ぽっくりぽっくり あるく

写真は元日の朝に撮った

“午乗り”親子の3ショットです！

お屠蘇を飲んでいたら、「午乗り親子」がひらめきました～（笑）

ところで

私、太田憲一は午年生まれ、「年男」でございます。

24歳になりました！（×2です・・・）

気づけば5回目の午年。

3回目の24歳は、社会人2年目。

あ～あの頃は、世の中に無知だったなあ～

正義感と常識だけで、まだまだ未熟で青かったなあ～～

4回目の36歳は太田東西薬局（長崎にUターンして）6年目。

息子らが小5と小2。

仕事は頑張ったと自負できるものの、果たして

子育てはどうだったかな？

まあ～あれから12年、午乗り写真を撮れる仲だから（カメラマンが妻で）

そこそこ「いい父」だったとしよう！

そして親子である以上、これからも子育ては続く。

「子どもが成人してからも子育てなんて、過保護では？」

そう思う方もいらっしゃるかもしれませんが、

子どもの身の回りの世話や経済的援助を続けることではなく、

“親の生き方を示す”

それが「不変の子育て」と私は考えます。

言葉ではなく、“生き方”で示す！

どんな生き方??

「尊敬される生き方」ですね。

子どもに愚痴と文句と命令ばかり口にする親は、

子育て失格、親失格です！！（新年からきびしい～～～～）

ところで

動揺「おうま」の歌詞、胸打たれますね！（涙）

「 お馬の親子は 仲良しこよし」

「 お馬の母さん やさしい母さん」

これはまさに太田東西のテーマ、「母性」の唄ではないですか！

そして

「 仔馬を見ながら」の部分

“温かく見守る”お母さん馬の母性を感じます！

さらに

「 ガンガンガン 走る～」

ではなく

「 ぽっくりぽっくり 歩く～」

というのが、いい！

お母さんは子どものペースに合わせて、目を配りながら、ゆっくり歩く。
この仔馬は、“絶対安心の境地”でしょう。

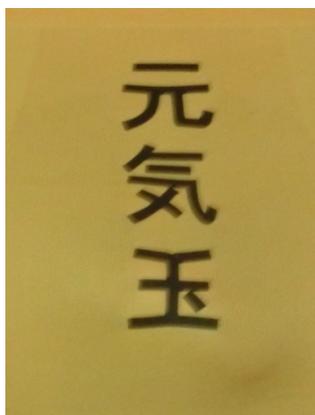
「早くしなさいっ！」「何やってんの！」「置いていくよ！」「勝手にしな！」
お母さん馬からは、そんなイライラ・セカセカ、みじんも感じさせません（笑）

我々人間も、お母さん馬のように、子どもには温かく接したいものですね。
こちらの「午乗り母子」のように \ (^ 0 ^) /



太田東西新春ブログ

“元氣玉”パワー



この“元氣玉”に触れると、
その年1年、健康で元気に過ごせるという

(読者のみなさんも、ぜひ触ってみて)

その“元氣玉”のご利益を求めて
一人の参拝者がやって来ました



早速、ご神体に触れております

“元氣玉”パワー発動！！

心なし、もこっております！！！！

参拝者、

“元氣玉”パワーをいただき、大喜びでございます



“祖母と孫との世代間伝達”成立！！

\ (^ 0 ^) /